

豊島とWWFジャパンの繊維生産の環境負荷低減に関するパートナーシップが始動

ナノ・ユニバースがサステナブルなTシャツを発売

豊島とWWF(世界自然保護基金)ジャパンは昨年12月に繊維生産における環境負荷低減を協働して行うパートナーシップを締結した。並行して、サステナブルなファッションの普及を目的としたライセンス契約によるプロジェクトもファッションブランドに提案している。

このパートナーシップを通して豊島とWWFジャパンは、繊維産業の最大の環境課題の1つである水利用・水質改善に向け、主に染色工程のサプライヤーへの働きかけと、取引先への水質改善の重要性の啓発を行う。この取組では、豊島単独では解決困難な環境課題をファッション産業のサプライチェーンを巻き込んだ「水スチュワードシップ」として推進していく。またライセンスのプロジェクトにおいては、オーガニックコットンを中心とした環境に配慮した素材を使用した商品の販売を通し、サステナブルファッションの普及を目指す。パンダのモチーフで知られるWWFジャパンのロゴ

を付けたアパレルや服飾・生活雑貨を国内で販売し、売り上げの一部をWWFジャパンの活動資金にあてるというものだ。

WWFとのライセンス商品は、自然にやさしいオーガニックコットンなどサステナブルな素材の使用を条件としているほか、商品に付ける下げ札や紙媒体の販促物に森林の環境保全に配慮して作られたFSC認証紙の使用を義務づける。世界標準として広まるサステナビリティの潮流を、ファッション業界全体で推し進める取り組みだ。

ライセンス第一弾として、ナノ・ユニバースがWWFジャパンのロゴ入りTシャツを7月上旬に発売する。デザインはタイダイと無地の2モデルで、トルコ産のオーガニックコットンを使用している。価格は共に4000円で、全国のナノ・ユニバースとeコマースで販売する。ナノ・ユニバースの担当者は同プロジェクト参加の意義について、「2020年秋冬シーズンからサステナブル(SDGs)を意識したラインアップを展開していく。その中で、豊島とWWFジャパンが取り組むプロジェクトを知り、商品に落とし込むことができたことを大変うれしく思う。これからアパレル業界もサステナブルを意識しない

といけない時代になる。できる限り、環境や健康を意識し続けるブランドでありたい」とコメントした。

WWFジャパンがパートナーシップ契約

WWF(世界自然保護基金)とは?

WWFは1961年、絶滅の危機にある野生動物を救うことを目的にスイスで設立され、「人と自然が調和して生きられる未来を築く」というミッションのもと、現在は世界80カ国以上に拠点を置き、100カ国以上で約7000人の専門家が活動する国際環境保全団体。野生動物の保護のほか、地球温暖化を防ぐこと、森や海を守ること、持続可能な社会を作ることを主な目的としており、その活動は世界で約500万人の個人と、約1万社の企業や団体によって支えられている。WWFジャパンは1971年設立、約4万8000人の個人会員、約500社の企業からの支援に支えられて活動している。



を結ぶ日本で唯一の繊維アパレル企業である豊島の担当者は、「当社は約30年前から環境に配慮した素材開発に力を入れてきた。今後、お客様がパンダロゴマークのついた商品を店頭で見た時に、ファッション産業が地球環境に与える影響に配慮した持続可能な素材開発に努力し、サステナビリティを推進したい、という思いを持っているという背景を感じてもらえたら嬉しい」と話した。

豊島は1989年に植物由来の再生セルロース繊維「テンセル」の取り扱いを始めたことを皮切りに、すでに100ブランド以上が参加している国内最大級のオーガニックコットン普及プロジェクト「オーガビッツ」や、廃棄食料を再利用する「フードテキスタイル」など環境保護に配慮した独自の素材プロジェクトを数多く手掛けている。



1.オーガニックコットンを使用したタイダイのTシャツ(4000円) 2.シンプルな無地のTシャツ(4000円) 3.Tシャツの胸ポケットや襟にパンダのロゴマークを付けている 4.襟首の部分に「地球を守る」というメッセージをプリントした